

## 無償資金協力に係る事後評価票

(注)本案件は外務省評価案件です。

本評価票は外務省のホームページにて公開されている2005年度の無償資金協力におけるプロジェクト・レベル事後評価報告書(平成17年度)に掲載されている個別事後評価です。

担当公館名：在中華人民共和国大使館	
国名：中華人民共和国	案件名：日中農業技術研究開発センター機材整備計画
E/N署名日：2000年12月21日	供与限度額：14.44億円
先方実施機関：中国農業科学院	完工日：2002年3月7日
他の関連協力：「持続的農業技術研究開発計画」(技術協力、2002年2月6日開始)	
1. 案件の目的	中国の農業は、21世紀への持続可能な発展に向けて、①伝統的農業から近代的農業への転換、②粗放型経営から集約型経営への転換、③21世紀中には16億人にも達すると予測される人口に対する食糧の安定確保などが求められている。このような状況の中、農業技術の確立を図るため、農業科学院において農業実用技術の研究開発能力及び普及能力を強化する。
2. 案件の内容	上記1.の目的を達成するため、農業科学院内の「日中農業技術研究開発センター」における作物品種の改良、土壌改良及び節水農業、病害虫防除技術の研究開発等に必要な各種の実験用機材及び技術の展示・普及に必要な機材を整備する。
3. 案件の妥当性	<p>全般的評価：A-</p> <p>詳細評価：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本件は、環境に配慮した安定的な食糧確保を最終的な目標としており、地球規模の問題への取組及び貧困削減という観点から我が国の対外援助方針である「ODA大綱」や「対中国経済協力計画」に合致するものである。</li> <li>・ 中国の現政権はこれまで以上に農業問題及び環境問題を重視する姿勢を打ち出しており、本件もその2つの問題を扱うプロジェクトとして、中国政府の政策目標の「安定的な食糧確保に寄与し環境にもやさしい農業実用技術の確立」と合致するものである。</li> <li>・ 必ずしも現地の具体的なニーズに合致していないと考えられる機材もあったが(詳細は下記4.参照)、大部分は現地のニーズに合致している。また、本件及び並行する技術協力プロジェクトとの連携により、例えば新しい品種の開発を行うことにより、貧困地域での食糧確保・増産が可能となり、多くの地域の人々の貧困削減につながる事が期待される。</li> </ul>
4. 施設/機材の適切性・効率性	<p>全般的評価：B</p> <p>詳細評価：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全般的にはよく使用されている。</li> <li>・ しかし、一部使用されていない機材が存在した。具体的には、昌平実験農業基地に供与された機材で、センター側によれば、実際に使用して以下のような問題があったため、現在、使用していないとのことであった。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 播種機(カルチパッカー)：北京の土壌に合わなかった。</li> <li>(2) ブーム式スプレヤー：機材が大きすぎて不便であった。</li> <li>(3) 種子乾燥機：北京の気候が乾燥しているので必要性が低く、またランニン</li> </ul> </li> </ul>

	グコストがかかったから。
5. 効果の発現状況（有効性）	<p>全般的評価：B－</p> <p>詳細評価：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当初想定した本件実施による直接効果の発現状況については以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 「研究・実験の精度の向上とスピードアップ」について、以前と比べかなりの改善が見られた旨先方より説明があり、実際機材を使用する責任者からも同様の評価が聞かれた。</li> <li>(2) 「新品種／実用技術の開発促進」について、先方からも、「初歩的な成果が出た」との説明（下記9. 参照）であった。農業の新技術の開発には一定の時間を要するものであり、この点については、中長期的な視点での評価が必要である。</li> <li>(3) 「研究成果の普及体制の改善」について、機材の有効利用の観点から、供与機材を専門的に扱うオペレーターの研修を進めており、各地方からの研究・分析依頼に対応できるような体制が整えられつつあること等、普及体制の改善への動きが見られる。</li> </ul> </li> </ul>
6. インパクト（波及効果）	<p>全般的評価：C＋</p> <p>詳細評価：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今次調査では目立った形での波及効果を多く見ることは出来なかった。「効果の発現状況」と同じく、インパクトについても中長期的な評価が必要である。</li> </ul>
7. 自立発展性・さらなる改善の余地 (改善の余地がある点については以下に記入)	<p>全般的評価：A－</p> <p>詳細評価：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被援助国自身の自立発展重視の姿勢を踏まえ、本年（2005年）より、同センターのみを対象として年間400万元（約5400万円）の予算が手当され、その多くをソフト面（機材を操作するオペレーターの育成等）に充当する計画をすでに有していることから、今後更なる機材の活用が期待される。</li> <li>・但し、機材操作の責任者が、機材の操作技術を広く共有しない傾向が一部ある。</li> </ul>
(1) 対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・操作責任者の意識改革を進め、操作技術が広く共有されるよう、先方に申し入れる（今次調査でも機材操作技術の共有化につき申し入れを行った）。また、使用されていない機材については、技術協力プロジェクトにより派遣されている専門家とも協議の上、然るべく活用されるように指導する。</li> </ul>
(2) 対応方針理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機材の操作については、責任者だけでなく、多くの研究者が習得することにより、機材が有効活用され、センターにおける研究成果の発現に寄与すると考えられるため。</li> <li>・使用されている機材については、先方実施機関の要請に基づき、必要性があるものとして選定しているものであることから、その有効活用について検討をする必要があるため。</li> </ul>
8. 広報効果（ビジビリティー）	<p>全般的評価：B</p> <p>詳細評価：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同センターの建設自体は中国側によるものであるが、センター名称に「日中（中</li> </ul>

	<p>国語では「中日」)が使われていること、供与機材には目立つところにODAシールが貼られていることにより、日本の協力案件であることは、訪れた人は誰でも容易に分かるような形になっている。また、政府高官の視察も頻繁に行われていることから、中国政府関係者の間でも広く認知されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 但し、関係者以外での広報はそれほど十分ではなかった。</li> </ul>
<p>9. 被援助国による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 本無償資金協力により、日中間の農業研究事業を進める上で良い基礎が出来上がった。そして、優良な仕事環境及び大型精密機器の導入により、順調な研究活動が保障された。</li> <li>▪ 技術協力プロジェクトとの連携により、多くの研究、技術革新、学術協力が進み、環境に配慮した、持続可能な実用的生産技術の開発、推進の面において初歩的な成果をすでに挙げている。</li> </ul>
<p>10. 提言・教訓</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 先方実施機関の要請に基づき、必要性があるものとして選定したものの、使用されていなかった機材に関しては、仕様の設定に問題がなかったかどうかを検証し、今後の同様案件に生かしていくことが必要である。</li> <li>▪ 本件は研究・開発の進展促進を目的としていることから、具体的な成果が目に見えるまでには、今暫く時間を必要とする。技術協力プロジェクトの進展も見極めながら、今後定期的に視察し、効果の発現状況をフォローしていく必要がある。</li> </ul>
<p>11. その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 特になし。</li> </ul>